

## 特別セッション開催趣旨

第 56 回研究発表会および現地見学会実行委員会

長野大会において、3 つの特別セッションを開催いたします。皆様方からの発表をぜひお願いいたします。

### 【特別セッション1】「地域防災・山地防災の実情と課題」

(世話人:独立行政法人 国立高等専門学校機構 長野工業高等専門学校  
環境都市工学科 松下英次 准教授)

#### [開催趣旨]

平成 23 年 3 月の東日本大震災以後、多くの自治体において地域防災計画の修正や改定が実施されてきており、警報発令や降雨予測などの情報発信技術は年々高度化が進んできている。しかしながら、今回研究発表会の開催される長野県のような多くを山地に囲まれた地域にとっては、過疎化や高齢化による地域防災力の低下、山地災害情報の収集能力低下等が懸念されている。また、斜面災害の恐れのある各危険箇所については、未だ対策未整備な地域が多数あるのが実状である。

本セッションではこれまでの地域防災の取り組み内容等を共有し、今後どのような関わり方をしていくべきか、実情と課題について発表の場を設け、日頃の調査研究活動の成果を社会へ普及させるための議論とすることを目的として開催する。研究者・実務者のほか、行政関係の方からの発表を期待します。

### 【セッション2】「直下型地震と地すべり大規模崩壊による被害予測・予防対策」

(世話人:新潟大学 災害・復興科学研究所 福岡浩 教授)

#### [開催趣旨]

近年の我が国においては、熊本地震、岩手宮城内陸地震をはじめとしたマグニチュード7超規模の直下型巨大地震が続発し、地震時大規模地すべり災害に対する国民的関心が高まっている。本学会は、「地震地すべり特別プロジェクト」を実施し、さらに国土交通省の研究開発課題「類型化に基づく地震による斜面変動発生危険箇所評価手法の開発」に取り組んだ経験を有する。本年度の研究発表会が開催される長野県においても東日本大震災の翌日に発生した長野県北部地震、平成 27 年長野県神城断層地震による大規模地すべり災害が発生し、調査・対策が実施され、研究成果も公表されている。

地震時地すべり予測、災害危険度評価や予防について、従来の研究成果をレビューし、最新の研究成果・動向を紹介するとともに、新たな研究テーマの展開について議論することを目的として開催する。

### 【セッション3】「積雪地域における地すべりの動態とその対策」

(世話人:京都大学防災研究所 松浦純生 教授)

#### [開催趣旨]

積雪地域の地すべりについては古くから融雪との関連で多くの議論がなされてきており、我が国の地すべりにかかるテーマとしては非常に長い歴史をもつものの、その厳しい自然環境のせい、なかなか良質な基礎データが

とられてこなかったのが実状である。しかしながら最近、観測機器の性能向上、自動化やネット化が進み、多雪地域でも各種基礎データの採取が可能となってきた。このため、さまざまな積雪環境での地すべりの動態を対象にした研究も徐々に増えてきている。

今回研究発表会が開催される長野県の北部、および大北地域はいわゆる豪雪地帯である。冬季には4m超の積雪を記録する地すべり地も多く存在するため、本セッションを設け、改めて積雪地域における地すべりの動態について知見を深めるとともに、その対策について考えることを目的として開催する。長野県に限らず、各地の積雪地域における地すべりに関する研究成果の発表を期待します。

以上